

闘う弁護士・西村國彦の

12

ゴルフ版経済敗戦を総括する(7)

N:N弁護士(弁護士経験42年)

A:N事務所で修習中のA 司法修習生(今年弁護士登録予定)

正義

西村國彦（にしむら くにひこ）
お酒は飲めないカラオケも駄目の営業
ことから人生も性格も激変。ゴルフ大好き
イも書く傍で、法的に弱い「ゴルフ場会員
正面から闘いを挑み、擊破。最近、ジャズ

西村國彦（にしむら くにひこ）
お酒は飲めないしカラオケも駄目の営業下手の弁護士。そんな男が40歳を迎える年、ゴルフを始めたことから人生も性格も激変。「ゴルフ大好き仲間を求めるオーディション」になつて、世界を放浪。ゴルフエッセイも書く傍で、法的に弱いゴルフ場会員たちの権利を守るため、「新理論」を構築。ハゲタカ外資にも正面から闘いを挑み、破撃。最近、ジャズの世界も覗いている。日本ゴルフジャーナリスト協会理事。

A:2000年に施行された民事再生法と、会社更生法のどちらが優先するのか、興味深い展開でし
たね。

A:2003年には、会社更生法が改正され、イラク戦争勃発、2004年



「深い溝」を越えるには？

社会を変えるには、結構大きなエネルギーが必要だ。

社会の現状を見ると、必ず「今」に満足しているように見えるひとが多数いる。正確には、自分で考えることができないため、満足していると錯覚しているひとが多いのかもしれない。彼らは本能的に、現状を変えることに抵抗する。その意味で、彼らと変革者との間に「深い溝」がある。

戦後の日本では、社畜となって経済復興すれば明るい未来は約束されるとばかり、男は外で働き女は家庭をつくってきた。枠の中の方が、安全だし楽だったのだろう。

それが今、崩壊の危機にある。それに気づいたひとたちも、まだ自分たちの生活レベルを下げてまで、危機を共有したくはないようだ。まだまだ変革者と現状維持派の間には、越えるべき「深い溝」(キャズム)がある。

コース、10兆3919億円で、それから1991年(平成3年)から2018年(平成30年)の28年間の半分以上の数字を記録している。A.まさにバブルの崩壊。
N:2001年(平成13年)は、3年前に150億円近い鑑定価格だった浜野GCの鑑定評価が、45億円に下落した頃だよ。9・11同時多発テロの年であり、小泉内閣発足の年もある。

N・2002年(平成14年)はペイオフ解禁の年だったが、いきなりスポーツ振興グループの会社更生申立があり、その後、和議が2年前に認可されていた日東興業が民事再生申立をしている。10月には総負債額4922億円のSTT開発の民事再生法適用申立もあり、大型倒産が続いた。

ゴルフ場法的整理82件、総負債3兆239億円で、ゴルフ場整理のピークと言える。

2003年(平成15年)は浜野G会社更生開始、清川CC更生計画成立のころだが、ゴルフ場法的整理80件、総負債額2兆192億

N:2005～2006年は、ともに外資系のアーディア・PGMの上場のほか、浜野GCの抵当権無効判決と会員中心の更生計画案成立が話題になった。

2005年71件のゴルフ場法的整理、総負債1兆4004億円、2006年、52件のゴルフ場整理、総負債5791億円。

A:まさに「ゴルフ界のマネー敗戦」でしたね。

（2） ゴルフ界のマネー敗戦
—①マネー敗戦データ
A：結局ピーク時2460コース
(NGK集計、2019年3月号参考)
照、現在2200コース前後に減
った日本のゴルフ場は、この間、い
くつ倒産したのでしょうか？
N・驚くなれ、既に1000コース

生「ゴルフ場は、周辺ゴルフ場を安
売競争に巻き込み、ほかのゴルフ
場も弱体化させるという、悪循環
業界なのだ。

A:「ということは、未着工コースを含めると1009コースですが、そこから1年経過後の平成末期には、もっと増えているわけですね」
B:「そう。まさか1000コースが

①日本のゴルフ場数(2010~2011年12月号)
2バブルとその崩壊：(同上)

②金融機関の貸出実績書は何故公開されないので？(2011年1月号)

③最高裁判所は、原則として貸出実績書の公開を認めない(同上)

5日本のゴルフ場のバブル期の価値は？(2011年2月号)

6バブル経済崩壊後の評価は？(2011年3月号)

73兆円ほどどこへ消えたのか？誰が損をして誰が得をしたのか？(2011年4月号)

8日本のゴルフ版経済戦(1)マネー敗戦(2010年5月号)
(2)ゴルフ界のマネー敗戦
①マネー敗戦データ(本号)
②バブルピーク時の差額(次号)

前後のゴルフ場が裁判所のお世話になっている。

ちなみに、2019年R&A集計の世界のゴルフ場数では、日本のコース数は2227コースとなつてある。

A:「…」

N:「…」

Y:「…」

たちがいるため、優勝劣敗の原理を貫徹しにくい背景はあった。だけど、ここまで来ると、日本の「ゴルフ場を以前のまま残すことは、時代の流れに逆らうことになつてしまつ。

法的整理対象になるとは誰も予想しなかつただろう。特信データでは、平成30年1年間で、件数13件、ゴルフ場数15コース、負債総額539億円。他方、帝国データバンクのデータでは、件数20件、負債総額923億円。

平成31年3月末の数字はもうすぐ発表されるだろう。

A：過去の各年のゴルフ場破綻数のデータを調べると、興味深いです。

ピーカは2002年(平成14年)で、件数98件、コース数135コース